

「第8期南砺市高齢者保健福祉計画」第3回策定委員会議事概要

日	時	令和3年2月8日(月)午後7時～午後8時40分
場	所	南砺市地域包括ケアセンター2階 多目的研修室
出席委員14名 (敬称略)		砺波地方介護保険組合業務課長 居島 ゆかり 公 募 委 員 井 幡 秋美 南 砺 市 歯 科 医 師 会 会 長 齋 藤 繁徳 な ん と 住 民 マ イ ス タ ー の 会 会 員 武 部 範代 公 募 委 員 竹 谷 弘之 南 砺 市 民 生 委 員 児 童 委 員 協 議 会 会 長 得 能 金市 南 砺 市 老 人 ク ラ ブ 連 合 会 会 長 中 井 啓光 公 募 委 員 中 山 明美 南 砺 市 社 会 福 祉 協 議 会 会 長 中 山 繁實 南 砺 市 地 域 づ く り 協 議 会 連 合 会 会 長 松 本 久介 南 砺 の 地 域 包 括 医 療 ・ ケ ア を 守 り 育 て る 会 会 長 山 城 清二 南 砺 市 ボ ラ ン テ ィ ア 連 絡 協 議 会 書 記 山 田 耕誠 砺波地方居宅介護支援事業者連絡協議会南砺市代表理事 山 道 克美 社会福祉法人福寿会特養いなみ施設長 吉 田 雅彦 富 山 県 砺 波 厚 生 セ ン タ ー 所 長 垣 内 孝子 公 募 委 員 幅 田 健司 南 砺 市 ヘ ル ス ボ ラ ン テ ィ ア 連 絡 会 会 長 藤 盛 明子 南 砺 市 医 師 会 会 長 松 智 彦
欠席委員4名		
事務局9名		地域包括医療ケア部 井口 一彦 部長 吉田 孝幸 次長・福祉課長 松田 哲也 次長・地域包括ケア課長 藤井 博之 医療課長 水上 武司 健康課長 吉本 幸治 長寿介護係長 亀田 明子 長寿介護係副主幹 金兵 留美 地域包括支援センター長 竹内 嘉伸 地域包括支援センター長補佐

## 1. 開 会

事 務 局：本日は、設置要綱第6条第2項の規定により有効に開会しておりますことをご報告いたします。

## 2. 挨拶 中山委員長

## 3. 議 事

中山委員長：それでは次第3の議事に早速移りたいと思います。(1)の第8期南砺市高齢者保健福祉計画の原案について、またこの資料も併せての説明になるかもしれませんが、事務局の方からご説明をお願いします。

資料に基づいて、事務局から説明・・・資料1から資料4-2

委 員 長：只今、事務局から原案につきまして、添付資料に基づいた説明ということで、皆様のご意見や、いろいろとアンケートの実態調査から見えてきた課題等について、どう向き合うかということを中心に、どのような形でこの本文の中に表されているかということのご説明があったところであります。それでこの本計画につきまして、介護保険組合との計画の整合性というところも言われておりますので、その辺について、居島委員さんも今日、ご出席でございますので、少しコメントをいただけたらという風に思います。居島委員さん宜しいでしょうか。

委 員：これまでの経緯等、お話ししたいと思います。砺波地方介護保険組合では、第8期の介護保険組合の事業計画を今、策定中ということであります。1月中には、組合の幹事会、策定委員会、また理事会等を経まして、1月26日から本日まで市民の皆様にご意見をお伺いするというパブリックコメントを実施いたしております。また、2月10日にはそれを受けまして、推進委員会を開催する予定としております。これらを経まして、2月15日の組合の議会で、最終的な介護保険事業計画の素案を報告する形にしております。その計画の中では、各構成市から第8期に向けての施設等の整備計画等の意向をお伺いしながら、サービスの見込み量も算出しております。組合の方でも人口等の推計等を行っておりますが、構成3市の総人口は今後ますます減少していくものと推定しております。その中でも、65歳以上の高齢者人口も令和3年度から減少傾向にあります。

特に75歳以上の方は、増加していくような状態にあり、ますます高齢化が進んでいくものと思われます。各市の保健福祉計画の会合に参加させていただき、それぞれ地域的な課題を見つけられて、何が必要かということを経営の中に盛り込んでいってほしいと思います。

また、組合の事業との整合性ですが、組合としては地域包括支援センターとの連絡会等も開催しており、その中で何が必要かということも皆さんとお話ししており、そういう課題もたくさん盛り込んでいただいているかと思えます。組合としては、今後も各構成市の実施している事業等も含めまして、高齢者が自分らしく生き生きと生活できるよう取り組みをサポートするような支援もしていきたいと思っております。

施設の方ですが、南砺市も8期の施設の計画がありますが、高齢者の方も増えていく状態で、今後ますます介護の施設サービスも同様のものが必要かということが推計されます。在宅サービスでは最近、デイサービス、通所リハ、福祉用具のレンタルサービスが7期でも伸びておりますので、8期ではいくらか今までよりも少し見込み量を増やした計画としております。今後もまた、皆様のご意見を聞きまして組合の方で介護の事業としまして何が必要か、どういう風に取り組んでいけばいいかということのご意見を伺いできれば幸いです。また、宜しくお願いいたします。

委員長：どうも有難うございました。今、居島委員さんの方からありましたように、この計画、介護保険組合の計画とも整合を持って、成文化されているとおりのことだと思います。

それでは、この原案につきまして委員の皆様からご意見を賜りたいと思うのですが、個別にご質問、或いはご意見がございましたらお願いしたいということで、マイクをお持ちしますので挙手の上、発言をお願いします。最後には、全ての委員さんから感想的なこと、或いは今後の行政に対するご要望でも結構でございますので、全ての委員の皆様からご意見を賜りたいという風に思っております。先ず、それでは前段の部分で、この計画書をお目通しをいただいて、何か感じられたことで疑問点等があればご発言をお願いしたいと思います。宜しくお願いいたします。

委員：地域づくり協議会のことですので、資料1の107ページ。先程も説明がありましたが、これから介護予防を今一生懸命、B型も含めて数は増えていっているんですが、次のステップとして生活支援を積極的に取り組んでいくということが明記されていまして、市とも連携してこういうものに取り組んでいけるように我々もまた、啓蒙していかなければいけないという風に思っ

ています。この書き方なんですけれども、最後の「また～」がおかしいんですよね。「また、小規模多機能自治が取り入れられた後においても」、いやいや2年前にもう入ってしまっているのだから、「後においても」じゃなくて「小規模多機能自治がスタートしたことだから」とか。3年前のものがそのまま継承されているんじゃないかなという節がある。「取り入れられた後からも」っていうのはおかしい話で、もうスタートしているのですから、「取り入れられたことから、もっとこういうことに積極的に取り組めるようにお互い力を合わせて頑張るんだ」という書き方に直しておいてください。

それと、ちょっとお聞きしたいのですが、私の会社のビジネスの関係でも情報が入っているんですが、金沢からデイサービスの業者が、大変このたくさん福光、とりわけ角間の方へ抜ける道路が大幅に改良になったこともあって、30分程あれば福光の方まで来れるということもあって、非常にたくさん業者がいろんな形で、例えば老人ホームへ入りませんかという話も含めて、デイサービスも入り込んできている。今までは、南砺市にある施設だけをイメージして、どういうサービスがいくつあるかとか、何人位キャパがあるかとかいうようなことを言っておるわけですが、この南砺市の特殊性と、福光との道路が改良されたことによって、金沢の業者も南砺市のサービスの一部カバーしてくれているとすれば、介護保険組合で金沢の業者にどれぐらい行っておるのかというのは仕分けできるものですか。データの的に。請求くるわけでしょ。今後こういうものをデータ化して、金沢の業者がどれぐらい南砺市をカバーしてくれているのかというのを数値化して見えるようにしないと、あんまり正しく実態を把握していないことになるんじゃないかという気がするんです。結構来てるでしょ。どんなもんですか、感覚的に。金沢の業者の利用者数というものが。

委員：利用者数までは手元に無いんですけど、金沢の方のサービスを受けている方はいらっしゃると思います。

委員：だから、我々南砺市、道路が改良された、金沢も30分で簡単に福光から行けるようになった、もっと言えば角間のイオンの近くの業者だったら、福光までだったら20分で来てしまうからね。そこも南砺市はどう捉えるか、という視点が今後ますます必要になってくるんじゃないかと思えますから、私としてはそういうものをどういう形でデータ化していくかね。それが南砺市の介護サービスその他をどれだけフォローしてくれているのか、ということをお我々が知るといことも非常に大事でないかなという風に思います。

委員：委員も今言われたように、金沢から入ってますよ。金沢のサ高住とかそこらへ、あなた達見学へ行ったことありますか。ものすごい素晴らしいですよ。やり方が全然違いますよ。全国ネットも入っています。いや違いますよそれは。そうすると、私らもよくそういう形で、どういうものが、差額あるからということではないんですけれども、見学に行くわけですよ。民生委員として見学させて下さいと言ったら、それはやっぱり温度差が違いますね。金沢はやっぱり競争激化しているんですよ。これは全く違いますよ。私でも明日から入ろうかなというような気持ちにさせるようなね。それはやっぱりセールスですよ。うまいですよ。昔のあそこのなんやら園があったところぐらいは、本当にすごいですよ。これはね、地域社会の中でここまで見ておってここまでやろうかということだけで終わってたら、次のサービスまで求められないのじゃないかなという、これが非常に心配になるんです。金沢、今度は150億かけて、知事がやるかやらないかは分かりませんが、幹道やりますよ、あれ。もっと近くなりますよ。あれ全部、150億で全部隧道ですからね。冬でも夏でもバツと行きますよ。もっと近いですよあそこは。そうすると、そういう圏域のものが、本当、区別なくなってくることは間違いないのであります。これ、仕方がないことです。仕方がないことですからそれに対する対応ということをやったり南砺市も、今、表れなくても、ちょっと書いておかなければいけないんじゃないですか。広域圏のことに。圏域のことについて。今、5圏域の南砺市内のことばかり考えているんですけど。

委員長：民間事業者の進出みたいなものが、南砺市の方に無ければやっぱりこれは県境を超える、市境を超えるということは当然あって、今も現実そういうことで動いているということでありまして、ただこの見込み量については、そういうものも踏まえた形での見込み量となっていると思います。両委員のご意見を踏まえていろいろと内部でご検討いただければという風に思います。その他にございませんでしょうか。

委員：私の方から2点ばかり訂正が必要じゃなかという箇所を言います。18ページ、19ページに関して、19ページの方、要介護認定者数が、令和2年3、547人となっておりますが、18ページの方、令和3年で3、548人と一人だけの増なのでしょうか。それが1点であります。あとですね、56ページになります。56ページの①特別養護老人ホームの記述の方で、「原則要介護度3以上の要介護者が入所できることになりました。」とありますが、2015年に施行された改正、介護保険法では「要介護度3以上の要介護者でなければ入所できないことになりました。」となっております。

りますので、3以上でないと入所できないことになっておるんですが、この丸々の記述では改善されたような言い方になっております。これは訂正すべきだと思いますが。

委員 長：只今の2つの件についてお願いします。

事務局：1点目は確認をいたします。2点目の56ページにつきましても、文書の方、改めるよう検討させていただきます。

委員 長：2点目の部分については、やっぱり委員さんのおっしゃるように書き方が少し不適切かもしれません。一つ目についてはどちらかという見込値ですので、数値が正しいのかもしれませんが、それはまた事務局で再検討をお願いします。

事務局：1点目の18ページでございますが、こちらのグラフにつきましては、1号被保険者のグラフでございます、19ページにつきましては、1号以外のものも含んだ数値ということでございます。

委員 長：ともあれ、どういう数値が正しいのか確認だけお願いします。

事務局：今現在の時点でのご説明を申し上げますと、18ページの方は第1号被保険者ということで、65歳以上の方の将来推計値を表しています。19ページの方は、これ全体で第1号と第2号の被保険者の総数という形での数になってきますので、母数から出てくる要介護認定者数は、あの僅々のように見えるんですが、この19ページの中には第1号と第2号を分けてないというところで、数が少し差異が出ているという状況です。

委員 長：まあ単純に比較できない数値であると、こういうことでございますね。そうすると、これを見ている限りではそこまで読み取ることはちょっと不可能かもしれませんので。はい、分かりました。委員さんよろしいでしょうか。

委員：納得いかないですね。

委員 長：納得いかないというか、これはやっぱりあくまでも令和3年のは見込値でありまして1号被保険者に限ると。こちらの19ページの方は、令和2年のこれは実績。まだ、これはまだ出ていないですよ。ただ、今おっしゃるの

は65歳以上人口（A）という下に（B）が書いてあるから今の説明おかしくないですか。ともあれこれ数制的なことですので慎重に、事務局の方で精査いただきたいという風に思います。そして、修正すべきはまた、修正をさせていただくということで宜しくお願いいたします。

委員：少し確認させていただきたいところがあります。4ページです。第5の「全世代型地域包括システムの構築」っていうのは、前回は南砺市型と書いてあったんですが、中身の文章的に見ますと第1段の「本市では～」という部分が、過去からの経緯が短くなっているんですが、あと殆ど変わらなくて、最後に「全世代型地域包括ケアシステムを構築してきます。」その部分だけ変わっているんですね。ということは、今回8期と7期を比べた場合、殆ど変わっていない。中身的に。今回今まで、南砺市型と言っておったものを全世代型という言葉に変えるんだよという解釈で宜しいですか。何かこの際だから変えたということはあるんですか。この違いが分からないんです。名前だけの変更なのか。

事務局：断らない相談窓口なども含めました形での全世代型というもので文書化はさせていただいておるところでございます。  
今まで南砺市がやってきた南砺市型の地域包括ケアシステムと全世代型というのは、全世代型ということで先程言いましたように、断らない相談とか地域への参加支援とかいろんなことが全世代型ということで、掲げられておりますので、それはこちらの別のところで表現しております、この文章の中では、これまでやってきた南砺市型の地域包括ケアシステムを全世代型ということで読み替えるという気持ちで、ここは文章化しております。

委員：分かりました。

委員：なんでこうなったかということを説明しないと駄目なんですよ。これは、社会保障と税と一体改革の時にですね、本当は、この医療、福祉、それから全世代型をやりたいかったんですよ。障がい者であろうがなんだろうがやりたいかった。ところが、財源がもたなかったんです。ということで、今何が必要なのかということは、22年に高齢者を主体とした地域包括を打ち出しましょうというのは、政府の偽らざる事実であります。私もその審議会に入っておりましたので。そういうことで進めました。ところがですね、皆さん勘違いしたといいましょうか、法律の中にはそれが障がい者とかが入っていないということがやっとなかったんですよ。そうすると、何を言ってようが全世代型

ということを打ち出していかないと、なかなか挙げれない時代が来ているわけですよ。南先生が一番よく知っておられると思うんですが。

ですから、皆さんは高齢者をなんとかせんなんという話だけで来ていたのだけれど、そうではない。障がい者であろうが子どもであろうが、ワンストップでやって下さいというのが今なんです。ですから、これは決して間違いのないわけでありましたが、もう少し強烈な言い方をしたら良かったね。それだけの話です。税と社会保障の一体改革の時に一気にできなかったものですから、こういう表現になっていったんだ。冷静に考えればですよ。政府はしっかり、それは言うておきますが、できなかったことが事実なんです。学校の問題もありまして医療も全部やっております。そここのところの違いをちゃんと説明していただければ、我々も納得するわけです。

委員：その次に確認なんです、26ページに地域包括ケアセンター内の連携体制ということで、令和2年と5年の見込値が書いてあるわけですね。例えば地域ケア会議の開催回数、17と24と書いてあるんですが、75ページを見ましたら、なんか2段書きになってますね。会議が、地域ケア会議と推進会議。令和2年を見ましても実績値が10と3ですから13。それなのに17と書いてある。令和5年の方に24回と書いてあるんですが、どうみても12と10だから2つ合わせて22にしか見えない。これはどっちが正しいのかなと。

事務局：地域包括支援センターの方で立てましたこの計画につきましてご説明いたします。地域包括支援センター内の26ページの数が正しいものでありまして、75ページの数に挙げましたものの中に、例えば市全体で行っているものを含んでいない数になっておりますので、そのような誤解を招かないように、市全体の行う会議の回数もこちらに含めたもので今後表記をさせていただきます。

委員：それともう一つ、チームオレンジですね。103ページを見ましてもチームオレンジは書いてあるんですね。数について。しかし、読んで地域で支え合いの強化と高齢者の社会参加の促進という、まあ重要項目で挙がっておるA型とかB型とか、週一サロンの数については、後ろを見てもそういう数字が挙がってないんですね。データが。ということは、なんか重点事項、重要な事項ですよと言いながら、挙がっているものと挙がっていない、デジタルも挙がっていないという、説明も挙がっていないところがあるんですが、特にそれはなんか挙げないという理由があったのかどうか。



事務局：7期計画に基づきまして、今回も引き続きということで記載させていただいております。従いまして、後ろの方の実施計画の方には個別具体的な表記はしていないところであります。チームオレンジについては昨年から国の方で言い始めているもので、今回の計画には載っております。チームオレンジについては最初の私達が目指すべき大きな目標ということの中で、数値を設定いたしましたもので、今、委員が言われたように7期には無かったんですけども、ここで改めて計上させていただいたということでございます。重点事項にも掲げておる指標でもございますので、後ろの方で追加させていただきたいと思っております。

委員：できるなら、よろしくをお願いします。

それと、もう一つ、民生委員・児童委員の皆様の活動とか社会福祉協議会の活動は先程あったんですが、各町内会に地域福祉推進員という方が1名ないし2名おられて、南砺市の要綱でもあるんですけども、その人達については、どこかの1行で1項目だけあって、後ろの方に地域福祉推進員の活動について一切触れていないという状態です。それでいいのかな。若しくは追加されるものなら、地域福祉推進員に求めるものとか、活動の文を項目として追加されたらどうかと私、個人的に思っています。

委員長：今、ご意見いただきましたが。

事務局：地域福祉推進員の項目につきましても追加する方向で、進めさせていただきたいと思っております。

委員長：はい、有難うございました。

委員：先般、第2回の策定委員会の時に、基本理念の25ページに1、2、3、4、5という風を書いて特に5番目の「一人暮らしの認知症の方が笑顔で暮らせるまちづくり」の項目で会議の中で話題になってたかと思いますが、先程の説明の資料2の2ページ目に25ページの文章では、重点事項という形で説明されるのかなという風に私は聞いておったんですが、ちょっと説明が無かったような気がします。そこで、次の31ページ、基本理念の体系図の中に、重点事項が1、2、3、4と4つ書いてございます。基本方針も、1、2、3、4、5、6という風を書いてあるわけですが、この25ページの方と31ページとは全く関係が無いのかな、関係があるような、5つのまちづくり規範というところが、先般、問題になっておったような気がします、そう

ということと、私も明後日の砺波地方介護保険組合の会議に出席しなければいけないんだけど、ここの体系の砺波地方介護保険組合の基本理念が1、2、3、4の4つあって、その中に南砺市も含めての整合性も関連がしてくるわけですけども、私は保険組合の代表というような形で、2月10日に出席しなければいけないんですが、そのところをちょっと教えていただきたいのですが。25と31の関係はどうか。25の5番目の一人暮らしの話が特に前回も話が出てたような気がしてましたが、これは25ページはこれで、案として正しく記載されるのか、また、訂正したのかどうかという風に。ちょっとお聞きしたいなと思います。

事務局：25ページの5つのまちづくり規範につきましては、以前、田中市長が定めたものでございまして、前回の策定委員会でご意見を頂戴いたしましたが、変えられるものではないということで、今の形で進めさせていただきたいと思っております。そしてまた、31ページの表記の仕方でございますが、一番上の基本理念、南砺市の「5つのまちづくり規範」ということで、スペース的にこのような書き方をさせていただいておりますが、この中に25ページで記したような(1)～(5)が入っておるといふ考え方のものがございます。

委員長：宜しいでしょうか。その他にございませんでしょうか。

委員：分かりにくいけれど、それは福祉総合計画との関連性ですか。田中市長が言ったという話は、どっちなの。だから、そういう齟齬が出てくるわけであって。

事務局：これはこちらの計画だけの話でして、福祉計画は福祉計画で別のテーマになると思います。

こちらの高齢者福祉の方の「まちづくりの規範」ということで、田中市長が何年か前に策定したものでございまして、これを基に高齢者福祉の方を進んでいくということでございます。

委員：言わんとしておることは分かるけども、それは整合性を図るためには無理がでてくるんですよ。逆に言えば、無い方がいいわけですよ。何もかも一緒でなければならないというものではないんですよ。この辺のところから頭を柔軟にしていかないと、南砺市の次はないですよ。

委員：両委員からも話があったんですが、25ページの書いてあるとおりで、南砺市の5つのまちづくりですよね。高齢者福祉とは直接リンクしとるようなしてないような話なんですけど、31ページへいったら4つになってしまって、あの5つのまちづくり規範と同じ文言で、そうじゃなくて基本理念なら基本理念と書けばそれで。なんかこう4つしかないのに5つのまちづくり規範って言ったって馴染まない。ここはやっぱり工夫して書き直すなり、そして1～4は25ページの1～5と全然リンクしてない。そうでしょ。だからここはやっぱり書き方を工夫しなければ駄目ですよ。

委員：それは分かっておられるんだけど、どう書き込みしていくかという話なんですよ。

委員長：只今、そういったご意見、事務局の方とも少しまた、検討もいただきたいですけれども、この基本理念という中にこのまちづくり規範というものを織り込んだ形にする方がいいのかどうか、また、規範と計画とは別といたらおかしいけど、上に規範というものがあるという形にすべきかもしれませんし、これを連関させる必要は全くないのかもしれないかもしれませんし、その辺またご検討いただいて。

委員：邪な考え方をすれば、逆にあなた達は付度して、市長の言ったことを付度して非常に苦しんでいるのではないかと私は思いますが。もっと自由にやればいいんじゃないかと。

事務局：付度という言葉ではございませんで、先程、委員の言われたように、5つのまちづくり規範というのは、この高齢者の計画の中での一つの一番最初の大きなテーマでありまして、31ページの体系図が分かりにくいということで、一番上の基本理念の中にこれ5つが入ってなくて、5つのまちづくり規範というもので纏めてしまったもので、多分それが下へいけば4つしかないとかっていうそういう見方になってしまうという話ですよ。理念というか、先程の繰り返しになりますけれども、こちらの分野では一応、この5つに基づいているんな施策を展開していこうと。委員が言われた、計画毎には独自のテーマを持つような形でやっておると。最終的には総合計画とかいろいろのこととの横の整合性をとらなければいけないとは思いますが、この高齢者に関する、この計画についてはこの理念というのが一つの私達の最初に出てくる5つのテーマでございます。

委員 長：そういう意味では基本理念はこの体系図に入れるべきものではないのかもしれませんがね。ですから31ページのもの無くするという形の方が適切なのかなという気がしますけど。

事務局：そういう見方もあるということ、私達、今、初めて気づきましたもので。

委員 長：これは前回の策定委員会の中でもいろいろと議論になったことかもしれませんが、まあそういうことで整理をさせていただくということで、次へ進ませていただきます。

委員：81ページの食の自立支援事業について、指標ですね。延べ利用人数と書いてあるんですが、これっていうのは、一食でも食べた人がおれば、1と数えて10食なら10と数えるから、簡単に言えば弁当を4千何百個とか4万何千出しましたよという解釈の数字ですか。

事務局：そうでございます。実際の利用者は330人。

委員：実は何を言おうとしているかと言ったら、どれだけ食べたかよりも何人利用しているのかなという方が本当はベターなんじゃないかなと。なんでかと言ったら、これだけを見ますと、何かすごく高齢者の方が殆ど食べているような感じに見えたりするんですよ。何人おられるか分からないから。前回のものを持ってきたのだと言われるのですが、何か指標の捉え方が違っているんじゃないかなというのが私の個人的意見です。

委員 長：そういう修正の方向で検討してください。行政の方はどうしても予算的なこともあるから1食×単価みたい感じでいくものだからこうならざるを得ないのかもしれないんですけども。どれだけの方が利用されているのかという方が正しい数値の見方かもしれませんね。  
その他、ございませんか。

委員：送られてきた資料を読んでいたんですけども、細かい数字がよく分からずに皆さんの質問で大分理解ができてます。私は南砺市に関わってもう十何年になるんですけども、毎回いいことやってるなというのがいくつもあって、それが例えば、4ページ、5ページの全世代型、南砺市型が全世代型で、共助とか公助とか国の総理の何かこういう言葉を先取りしているような感じがしているんですけど、これ全部やって、非常に互助がすごくいいと思うんで

すね。それから自助に向けて何かいろんな活動をされるというのが、毎回会議に出ていてすごく頑張っているなというのが思うんですね。それで先程、介護施設の云々というのが、共助のところ、そういうので例えばどこか閉めるというような何かあったらやっぱり行政の方は早く察知して、介護施設を応援していただきたいというのが1点と、25ページのまちづくり規範というのは何度も何度も市長からも聞いていて、南先生からも聞いてすごくこれいい規範だなと思ってるんですが、確かに31ページに載せると、繋がってないというのが今気が付いて、そこをやっぱりきちんと書いた方がいいんじゃないかなと。それはやっぱり繋げるべきじゃないかなというので、重点項目逆に硬いような気がしててですね、逆に私は重点項目4点が硬すぎるんじゃないかなという気がするんですけど、ここは訂正した方がいいんじゃないかなということです。

それとあと、2点だけです。フレイルサポーターを導入したんですけども、今年度29名で、3年後に70名ってあまりにも少ないんじゃないかなというので、全市挙げてサポーターを増やしてほしいというのが希望です。というのは、コロナが無ければ今年度はフレイル検診というのが国は行われる予定だったんですけど、ちょっと伸びている。だからいきなりいろんなところで、フレイルサポーターの養成がバツと始まるので、せっかく導入したので、それをちょっと頑張ってですね、拡げてほしいということです。

それと最後にですね、ボランティアなんですけれども、ボランティアの人数が、山田さんがいろいろされているみたいなんですけども、人数が増えてて参加されるというのが、10%以下が多いかどうかはわからないんですけども、私いろいろなコロナ対策でやっているんです。最近殆どボランティアなんです。ボランティアで自分のお金をかけて、いろいろなパンフレットを作って富山市で配っているんですけども、ボランティアって素晴らしいですよ。公的なサポートで人を動かすのも大事なんですけども、南砺市の方で、年齢問わずボランティアが生き生きするような何か取り組みですね。山田さんに期待はしてるんですけども、すごくボランティアって後から非常に自分に対して、これやって良かったと、お金だけじゃなくってというのがあるので、前回までボランティアっていうのはあまり話してないです。自分でやってみてボランティアって非常に大事だなということと、自助も助けるんじゃないかなと。互助でやるんですけども、ボランティアの方がフレイルサポーターに入ってくれたらもっと、健康寿命が延びてくんじゃないかということで、是非、フレイルサポーターを増やしていただきたいということと、ボランティアの活躍する場、ボランティアを増やすとか、その高齢者だけでなくて若い方達のボランティアを育てるような施策を入れてほしいと思います。そ

うすることによって、有事の時ですね、何か起こった時ですね、最後はボランティアが動くので、平時の時につくっておかないと。ボランティア以外のところでは、もう行政の方々が何かやれと言っても、有事は動けないんです。やることたくさんあって。だから是非、ボアランティアを育てていただきたいと思います。

委員：ボランティアの団体ですけども、協議会という組織ですが、ボランティアグループが加入しておるわけですが、その方々が高齢者のグループ、会員が殆どで、これがやっぱり今、テーマの全世代型のボランティア協議会にできないものかと。若い方にもこの協議会に入っていただきたい。それでボランティアの登録、南砺市ボランティアセンターへの、これは社会福祉協議会にあるボランティアセンターですが、その登録もボランティア保険とか補助金貰うからボランティア登録するというだけでなく、幅広く登録していただいて、今のこの福祉の方に結び付くようになっていただきたいなど。私らも呼びかけますが、行政、社会福祉協議会の方も宜しくお願いします。

委員長：はい、有難うございました。いろいろと各委員の皆様からご質問等いただきましたが、冒頭お願いしておりましたように、全ての委員さんから一言ずつ感想も含めて、いろいろな修正点等も含められても結構ですのでマイクを回しますので宜しくお願いします。では順番にお願いします。

委員：大分言わせていただいたので、それで修正いただけるということで、非常に有難く思っております。ちょっと一つだけ確認。PDCAについてなんですが、前の第1回目に配られた資料を見ると、一般の介護予防事業にこのサイクルを取り入れるよと書いてありました。ということは、高齢者サービスの任意事業とかそこら辺はそれは入れないよという理解ですね。だから、任意の部分とか高齢者の南砺市の独自の事業には8期の目標値がありませんで、7期の実績しか載らない。それ以外の方は全部、介護保険の先程追加していただいた保険の方に載っているんだけど、福祉サービスの方だけ、7期の実績しか載せない。ということは、8期の目標値があるところはPDCAやるんだけど、それ以外の方はやらないという解釈をして宜しいんですかね。

委員長：そんな単純なものではないと思うんですが。

事務局：目標値につきましては掲載してないんですけども、それぞれの事業は年度毎

の事業予算とかで全て、予算、実績、主要施策報告書とかで全て、そちらはきちんと回してますので、ただ、こちらについては、計画の継続性があるので、全てを網羅しているわけではないということです。

委員：計画の継続性はあるんですが、これそしたら一生入ってこないんですよ。9期になっても10期になっても。まあ時間が無いから今回はそれでいいです。

委員：私がちょっと思ったのは、例えば62ページと74ページの関連してですが、地域課題を発見するには、もう少し地域ケア会議をこの表の中に、ちょっと分からないんですが、生活圏域、或いは地域づくり協議会という言葉が入ってそこの方での、地域レベルでのケア会議というか推進会議があって、地域課題を明確にするというものが是非やってほしいなと思いました。そしてそれに関連付けて74ページの方の地域ケア推進会議、ここにもやはり地域づくり協議会という言葉があってもいいんじゃないかなと。そういう方達も地域の方も交えて、そういった地域のケアの推進会議、地域の課題を乗り越えるというようなところを話し合うというところがあれば是非、いいのかなという風に思いました。

それと今、包括支援センター運営会議というのが組合で一括して3市合同の開催ですが、やはり私は南砺市独自のそういうものがあるのもいいのかなという風に、それがこのケア推進会議にあたるのかどうか分かりませんが、しっかり市民の方も交えたそういったような会合をしっかりとって、南砺市の課題、地域の課題というようなものを明確にしてそれにどうするかというようなことを考えたらいいのかなと思いました。

それとちょっと余談なんですけど、先程、金沢市の方のサービスを利用されるというのが増えているというのですが、南砺市内はサービスが一律ですね、金沢市はやはり土日開催とか、とにかく年中開催されているデイケアもデイサービスもありますし、利用時間に当たっていろいろですよ。でも南砺市内は9時～4時の一本で、半日で帰りたいと言っても送迎が無いからできませんと、そういうお断りをされるサービス事業所が殆どです。だから、もっとサービスの多様性とかいろいろサービスが増えることを願っております。

委員：今回、口腔機能維持と向上の方を入れていただき、ありがとうございます。また、いつかですけれど65歳以上の方で、口腔のフレイルについての調べるチェックもありますので、またどこかでできたらお願いします。

委員：ボランティア活動と地域づくり推進協議会の方、それから地域での健康福祉部会というものを皆さんつくっておられると思うんですが、その方々へのこの計画のものを推進していくことが大事なかと伺っております。

委員：先程からもお話ありましたが、介護保険の事業所等の整備等、また介護人材の不足ということも組合の方も課題でありますので、それらを整合しながらまた、各市の意見を取り入れながら組合の方でこれから必要なサービス基盤について検討していきたいと思っております。

委員：私は今おっしゃったように、介護職員の不足ということも踏まえて1月から介護職員として働くようになりました。週2回しか行ってないわけですが、その中でも金沢市の方の利用者さんは、私が行っている2日間の中にも3人いらっしやいます。ですから、平日以外に利用されていることが明らかになりまして、そういうところもやっぱりきちんとしていただけたら有り難いなと思っております。

それと、自分の地域での居場所というのを活動の中でも山城先生のおっしゃっていたフレイルのサポーターの講座を是非、次は受講してその活動も一緒に併せてしていけたらなと思っております。

委員：この計画書にいっぱい、なんとか事業なんとか事業と書いてありますが、本当に事業、例えば法律であるとか制度とか、予算付けのあるものですよとか、なんとか支援事業とか、事業でないものまで事業という名前を付けてあるのではないかなと。

74ページに第3層の協議会と書いてありますが、105ページの方には、イメージ図には第3層の協議会と書いてあった方がいいんじゃないかなと思ったりしています。

それから、107ページに地域づくり協議会だけ書いてありますが、例えば地域づくり協議会と自治会とか身近な方の助け合いといいますか、福祉の寄り添い、助け合い、支え合いがあればいいのではないかなと。

それから、いろいろな目標とかいろいろなのがありますが、果たしてアンケートで意識調査の時にこのようないろいろな福祉サービスであるとか、いろいろな施策、有り難いと思っ受けて止めておられるのかどうかということから、いろいろなことが見えてくるのではないかなと。もう遅いんですけど、次の第9期の時になるかと思ったりします。

それから、5ページのイメージ図、全世代型という割にこのイメージ図には、じいちゃん、ばあちゃんの高齢のご家庭しか書いてない。これに若夫婦と子



どもが書いてあった方が全世代型という感じになるのではないかと。

委員：私の仕事の中でも要介護の方が要支援になったりというところで、サービス調整を行うことがあります。その中でもやはりサロン事業の箇所数の目標値も高くなっておられて、その中で私たちの利用者さんの中にもサロンに行きたいと言われるんですけど、その時点で免許証の返納であったりとか、なかなか行きたくても移動手段が無いような状況も結構あります。その中で、以前、介護予防の研修の中で、どうしたらそういう方にも行けるのかなという話し合いをしたことがあります。その時に、印象的だったのは、デイサービスの車両がその時間帯は動いていない、その時間帯にそういうところで介護予防の方を少し送迎できたりとか、少し柔軟な考えを皆でしていたことが記憶に残っております。皆さんが楽しくサロンを利用できるようにと皆で考えた時の意見です。

委員：非常に充実した委員会だったと思います。一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯がますます増加する中で、今後も高齢者の世代、老々介護がますます急増してまいります。これからも市と、地域を支える各種団体、協議会が協力して地域を支えていけたらなと思っております。

委員長：各委員の皆様から貴重なご意見たくさんいただきました。大変、有り難うございました。ちょっと感想的なことを申し上げますと、全世代型の地域包括ケアということで、少し名称を変えたいということですが、南砺市型といった時に、ちょっと特色的なのは医療との連携の深さというところを追求しているというところがあると思うんですけども、その辺を少しどうなのかなというところはあると思いますけれども、ともあれ国もそういう方針を出しておりますし、それはそれでいいのだらうと思っておりますが、従来の医療との連携というのを十分にやっていただきたいと思っております。

それと、PDCAについては、ある一つの事業だけやるのかという質問が出るという、そういう取り方ができるということがあるとすれば、それは修正しておくべきだろうという風に思います。やはり計画全体をPDCAしているということですので、その辺また宜しくお願ひしたいと思っております。

いろいろとまた、細部に渡っていただいたご意見を踏まえて、最終的な案を事務局の方で調整していただきたいという風に思っております。

それで、これは私の方の提案なんでございますけれども、今日も本当にたくさんのご意見をいただきました。これらを踏まえて最終的な形で、整えたものを委員の皆様方の方へ配布をさせていただいてご確認いただくと

うことで、私共の当委員会の使命が終わるのかなという風に思っておりますので、この第3回をもって私の方の仕事が終わり、あと少しまだやっていたく仕事はあると思いますけれども、そういうことで進めさせていただければ有り難いという風に思っております。

委員：一つだけ。8期っていうことの、今連続できましたが、ちょうどその29年で地域共生社会というものの大転換を政府はやってきました。それに対して南砺市のポイントをどこに置いていくんですかというのをどこかで表してほしいんですね。全体が、モーッとしてるんですよ。今、私は南砺市が強いのは医療との連携だと、私は理解しています。これはやっぱりもっと強い方法でやられた方が安心してこっちへ来ますよ、皆さん。そして、地域の温かいものがあれば、こっちへ来ますよ。この辺のところを少し、保守型でどうなりましたこうなりました、我々なんて素人なんですよ。お医者さんもおられますが、全体的に動かす限りは素人なんですよ。何かの専門家だから全体的なことに対しては素人なんですよ。このところを知っておいてとお願いしたいところなんですよ。前回も私言いましたが、口腔外科の先生もおられますが内科の先生も外科の先生もいます。私ね、昨日、あるところでお医者さんに言われたんですけども、眼はどうするんですか。これは大事なことなんですけども。これに対して、なんとなく、眼というのはなんとか我慢していれば直るんだとか、或いは医療は進んでいるのでどうかは分かりませんが、この辺のところを、外科とか、或いは内科とかそういうのがあるんですが、この辺のところを、どうか医療というものの分野の中でどういう位置づけなのか。これは見えなかったらもう終わりですよ。この辺のところの一つも書き込んでないし。どこでもいいと思うんですよ。それは違うんですよ。先ず食べんな生きていけんやろうと、バーンと切られるわけですけど、この辺のフォローをやっていかないと。これは大変な社会問題ですよ。これが繋がっていきますよ。行動においても。フレイルとかいっぱい言っておられますが。この辺のところを少し、せっかく山城先生もおられますので。ちょっとその辺の観点を加えていただきたい。

委員長：委員会はそういうことで、これを最後にさせていただくということを申し上げましたが、ただ事務局にお願いしておきたいのは、今日の意見、或いはまた修正すべき点、これをできるならば、赤にするとか見え消しとか分かり易いようにして、全委員の皆さんにお送りいただいて最終確認をお願いして、また何かあればご返答いただくという、そういうような返事をいただくような文書にさせていただいて、お送りいただけたらという風に思っています。

拙い委員長でございましたが、3回目で終わらせていただくことになりました。各位の献身的なご協力に感謝申し上げます。  
それでは、マイクを事務局へお返しいたします。

今後のスケジュールを事務局から説明・・・資料5

事務局 印刷につきましては今回の計画書から、後ろの方にごございますデータ関係、こちらの方は製本せずにホームページでの公表に替えさせていただくことを考えております。  
以上を持ちまして、第8期南砺市高齢者保健福祉計画第3回策定委員会を終了させていただきます。長時間に渡りご審議いただき誠に有り難うございました。

(午後8時40分閉会)